

豪ドル相場について

今年になって対米ドルで 75 セント台、対円で 90 円台まで下落していた豪ドルは、最近やっと 81 セント台、97 円台まで戻りつつあります。

投資通貨として世界の投資家に人気のある豪ドルにはいくつもの顔があります。つまり資源通貨、高金利通貨、避難通貨、そしてトリプル A の最高投資格付けを有する国の通貨であることなどです。

豪ドルは世界の中央銀行が有する外貨準備通貨としても米ドル、ユーロ、円、ポンドに次ぐ第 5 位の地位をカナダドルと分け合っています (IMF—国際通貨基金—調べ)。

豪ドル相場の過去の動向を見てみましょう。

豪ドルは 2008 年秋の世界金融危機 (いわゆるリーマンショック) に際して 60 セント台、55 円台まで大幅に下落しました。

しかし世界経済が世界金融危機を克服して回復基調となる中、今度は資源ブームに乗って 110 セント台(2011 年)まで回復します。また対円ではややタイムラグがありますが、アベノミクスによる円安地合いを背景にして 2013 年には 105 円台まで上昇しました。

しかしその後は豪州資源ブームの後退とともに豪ドルは軟調地合いとなり今年には数年ぶりの安値をつけました。

金融危機以降 6 年余りの大きな流れをまとめますと：

AUDUSD 60 セント→110 セント→75 セント→81 セント

AUDYEN 55 円→105 円→90 円→97 円

為替相場は豪ドルのみならず、数年単位で見ますと大きく変動していることが分かります。つい最近まで豪ドル売り圧力が強かった原因は中国経済の減速、豪州資源ブームの終焉、RBA (豪州準備銀行) の金融緩和の影響などですが、今現在豪ドルは底入れから再度堅調地合いに戻りつつあります。

今後は大きく下落するよりは、むしろ年末に向けて対ドルでは 80~85 セント台を中心とした動きになり、一方対円では再び 100 円台をうかがう動きが予想されます。

冒頭に申しましたように豪ドルには種々の顔があるため、**豪ドル相場は、世界経済 (中でも中国経済) 世界の株価、資源・商品相場、国内景気、RBA の金融政策など多くの要因に影響を受けます。**

豪州資源ブームの終焉が言われて久しいですが、天然資源は有限であり、世界経済が巡航速度に戻れば、現在軟調の資源価格も再び安定推移するものと思われます。

投資通貨としての魅力をたくさん持った豪ドルですから、平時には世界中から資金が流入します。しかし一旦有事になりリスク要因が増加すると、今まで流入していた資金が急激に流出するために豪ドルが急落することが起こりえます。

したがって**豪ドル投資の必要なポイントは平時には押し目買い (下がったところを買う) を実行し、一方有事となった場合にもあまり狼狽しないことが大切です。**

時が経てば市場は平静に戻り、豪ドルにも再び資金が流入するパターンだからです。

弊社は“為替手数料 50 ポイント (50 銭) のみ”を謳い文句に日本の投資家の皆様の豪州投資の橋渡しの役を務め、多くのお客様に好評をいただいております。

送金為替にご興味のある方は弊社（ホームページ）：

http://jams.tv/BlogPosts/goods_post_list/junax/464

電話番号：612-9252-6304、FAX 612-9252-9011) または私、津田（携帯番号：61401-516-982、mail address: tsuda@junax.com.au）にご連絡ください。

よろしくお願い申し上げます。

APB JUNAX

財務部長

津田 穰